

若者等活動拠点施設に係る下二之町(1班)との意見交換会 結果報告

日時 平成30年7月31日(火) 19:00~20:00

場所 まちひとつら座かんかこかん 2階 和室

出席者 下二之町1班住民 9名、高山市 企画課2名、建築住宅課2名、文化財課 1名

内容

1.企画課長あいさつ

2.資料等の説明

設計業者による現地調査などを踏まえ、整備の方向性を検討

歴史的価値の保存を優先し、主屋の耐震はできる限りで実施

まゆ倉庫や土蔵は、歴史的価値を保存しつつ、耐震化するとともに使い勝手良く改修

トイレ棟は既存建物の床面積内で整備

建築用途は「事務所」とする

3.意見交換 ○:地域の方、→:市職員

○地域住民が現地立会いする際に、この部分は手を加えないでほしいと言え、そうしてもらえるのか

→どれだけでも安全性を高めたい思いはあるため、全てには応じられない場合もあることをご理解いただきたい

○紙床はどうなるのか、耐震はどうするのか

→紙床は基本的には手を加えない予定

歴史的価値保存のためには100%の耐震化はできないと考えており、できる限り高めるための整備を行う

○大変ありがたいことだが、考えが変わった経緯はどうなのか

→皆さんの強い想いを共有し、見直し案として庁内で協議した結果、合意に至ったもの

○文化財行政に携わらない市役所関係者も、地域住民から要望があったからではなく、しっかりと文化財的な価値を理解した上で、そのような判断をしてもらいたい

→価値を知り、そのような判断に至ったと理解している

○先人の伝統的技術の継承の機会になると良いと考えている。紙床は洗濯できるそうである

→紙床はあえて手を加えないという考え方にしている

紙を一度はがして洗って貼り直すならば、内部に耐震壁を入れたうえでの復元を考える

○耐震壁とは、塗り壁をいったん落として、構造物を入れ、塗り壁で戻すということか

→そのとおりで、見えない部分は変わるが、表面は以前に近い形で復元する

○土蔵はどうなるのか、床は直すのか、外観や階段は構わないのか

→床は直すことを想定している。階段は土蔵をどのように利用するかで、適切なものと考えていきたい

これまで検討会に参加してきた高校生などのメンバーが提案されたようなことは、土蔵やまゆ倉庫で実現したいため、防音など使用法を考慮した改修を行うことに、ご理解をいただきたい

○トイレや浴室はどうするのか

→トイレは既存のブースを復元再利用し、男子便所とする。浴室は、形としてだけ残したい

- 2階は原則一般開放しないとのことだが、そのまま残すということか
→床板はきしむので同じような材で張り直し、あまり手はかけないが全体に綺麗にはしたい
- 階段は今の位置で、今のままか
→今は手を加えないつもりだが、急で危険性も感じるため、雰囲気を壊さない程度に、傾斜をゆるくするなどの対策をすることも検討の余地があると考えている
- 今後は、何かを決める都度、協議してもらえるとということか
→耐震対策を行う壁については、地域の方々との現地立会いにより早々に決めていきたい。全体の検討会で了解をいただいたら、設計業者にある程度任せていきたい
- まゆ倉庫は、きちんと文化財調査をして保存ということで良いのか
→文化財調査はされたため、勉強しながら検討している
→まゆ倉庫は、昔のように柱や壁、床を復元することなどは考えていない
- 地域からの意見を聴き入れ、歩み寄っていただいたことは、非常にありがたい
多額の公費を投じる事業であるため、将来に渡って良かったと、施設を使ってもらえるよう地域住民としても協力していきたい
- 市長はどのような考えかを聞いてほしいとお願いしたがどうであったか
→市長も「立地や景観上も重要、建具なども貴重であるため歴史的価値の保全を第一とする。そのうえで、できる限りの有効活用を考えていくべき」といったご意見であった
- 主屋でお茶会などは行っても良いのでは
→基本的に主屋は積極的には使用しないが、全く使わないのはもったいないため、会議や見学などはしてもらえると良いと考えている
貴重な部分が訪問者に分かるよう説明標示を設置するために、地域でも協力いただきたい
- 文化財に指定することはどうか
→あり得る話だが、伝統的建造物の特定物件に指定済で、所有者が市であるので、文化財指定する意味はあまりないと考えている
→景観法に基づく景観重用建造物には指定済である

4.その他

- ・東京都市大学との連携により、旧村田邸を三次元(3D)スキャンすることについて、資料に基づき紹介
8/7(火)午後には、地域の方などに向けたデモンストレーションも実施
- ・8/8(水)愛知県の旭丘高校 70名程が、合宿研修の一環で旧村田邸を見学することを紹介

以上